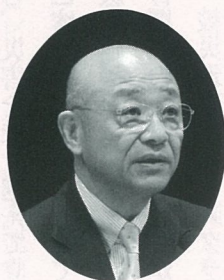


# 老人福祉法制定50周年を節目とし 心新たにクラブ活動の充実を

全国老人クラブ連合会理事・事務局長 齊藤 秀樹



## 地域の状況を知り、 自治会・町内会と連携して

第42回のこの全国大会には、全国から1600名が集い、昨日、市内の三会場で五つの活動交流部会が行われました。今年は昭和38年に老人福祉法が制定されてから50年になります。その50周年という節目の年の大会を、岩手県にお引き受けいただきました。

1部会「健康づくり・介護予防活動の推進」では、札幌市・青森県・北九州市からの事例発表を中心に、熱心な意見交換が行われました。老人クラブが行政をはじめ、スポーツ指導員、食生活改善グループなどと連携・協力しながら、主体性をもって計画的に活動に取り組んでいる状況が報告されております。

リーダー養成を「過性に終わらせないよう」に研究会を組織化し、健康づくり推進員の存在感を高めている事例など、老人クラブが地域の高齢者を巻き込み、関係者と一体となって介護予防活動を進めている活動の成果に期待が高まった部会でした。

2部会では「わがクラブの活性化、



加入促進プラン」をテーマに、岡山県・高知県・福井県から、「楽しいところに人は集まる」をモットーに新企画づくりを進めている活動など、三つの事例が報告されました。「自治会・町内会などの関係者と連携する」「地道に勧誘活動を進める」ことが大切であることが確認された部会でした。

## 20周年を迎えた 全老連女性委員会の活動

3部会は「女性会員による元気なクラブづくり」をテーマにしたパネルディスカッション。全老連の女性委員会設立20周年を記念して企画されました。

この20年を総括して、まず永井全老連女性委員長から「女性委員会のあゆみと現状」が報告され、3人のパネラーからは、高齢者の詐欺被害をテーマにした寸劇、手芸や料理講習、演芸発表、ファッションショー、元氣袋の作製などの活動についての発表がありました。

女性活動に共通するのは積極的に



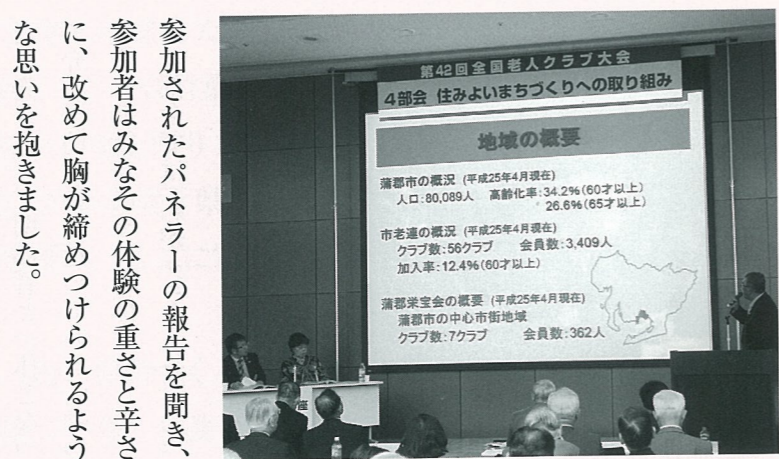
手や体を動かすという動的な要素に、華やかさが重なるということです。さらにコミュニケーション能力の高さが強みになっております。

4部会のテーマは「住みよいまちづくりへの取り組み」です。沖縄県・愛知県・神戸市から、日常的に行われている見守り活動や高齢者の居場所づくり、そして買い物支援など、介護サービスという「生活援助」の活動が紹介されました。ご承知のように介護保険制度の見直しでは、介護度の比較的軽度な方々への支援は事業者だけに委ねるのではなく、お互いさまという互助の精神で支え合う仕組みを育てようとしています。

すでに老人クラブは地域の介護力を高めることに貢献できるまでに、その活動が成長・発展していることをはっきりと示すことのできた部会でした。

## 大震災の 困難と辛さを乗り越えて

5部会は、地元岩手県で企画した部会です。「東日本大震災と老人クラブ」をテーマに、東北の各県から



参加されたパネラーの報告を聞き、参加者はみなその体験の重さと辛さに、改めて胸が締めつけられるような思いを抱きました。

この部会はコーラス、津波の恐ろしさを伝える語り、パネルディスカッション、そして支援活動への感謝を込めた祝い唄の披露など、多彩な企画で構成されました。短い時間ではありましたが、体験を語り継ぐことの大切さ、災害を乗り越えて立ち上がろうとする意気込み、そして元氣を取り戻すきっかけを与えてくれた全国の仲間への感謝の気持ちが織り込まれ、被災地東北の老人クラブ

魂が強く感じられた部会でした。

被災地の4県市老連(岩手県、宮城県、仙台市、福島県)では、元氣袋の支援に応えるために、「感謝袋」を作製して皆さまに配布しています。この大会をきっかけに、被災地との交流を計画している府県もあると伺っています。震災で結ばれた友情をぜひ育んでいただきたいと存じます。

岩手県をはじめ、東北の被災地が一日も早く復興を遂げられ、宮沢賢治が夢見た「イーハトーブ(理想郷)」を築かれることをお祈り申し上げます。部会報告といたします。

